



アイスブレーキング(2)

毛利 邦彦*1

MOURI Kunihiko

前回は三葉虫と恐竜の卵について書きましたが、今回は恐竜の化石である「DUNG」について書きます。

2002年6月に米国フェニックス市にて、ASME主催のIJPGC (International Joint Power Generation Conference) が開催されました。日本からは三重大学の加藤政蔵教授他十数人が参加しましたが、私はその中の分散電源のセッションの基調講演を行いました。

さて、前日に加藤先生達とアメリカ料理を楽しむために郊外の幌馬車を飾ったレストランに行きました。ほろ酔い加減での帰り道に、とあるお店に化石があるのに気が付き店に入りました。その化石が写真にある恐竜の「DUNG」です。

お恥ずかしい話ですが、「DUNG」の意味が分からなかったので、店主に聞きに行きました。大きな声で「Excuse me, I have a question. What is this dinosaur dung?」「DUNG」「DUNG」と何回と無く大きな声で聞くものですから、廻りにいるアメリカ人が何となく「くすくす」笑っているのに気が付きました。結局10分くらいして、これは恐竜の糞の化石であることが分かりました。写真では分りにくいのですが、この化石は恐竜の糞を輪切りにしたものであり、全体では約40cmの「糞」の形をした

ものです。

基調講演のアイスブレーキングには前回紹介した三葉虫と恐竜の化石を使うつもりでしたが、急遽変更して、この店主との会話を有りのままに素直に紹介しました。

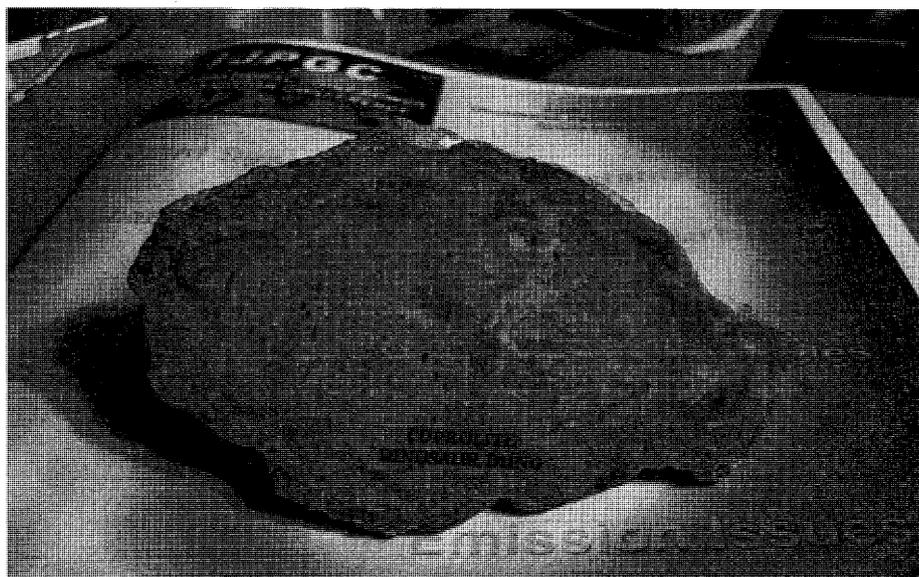
会場には笑顔が漏れてアイスブレーキングの役目を十分に果たしました。

そもそも、化石を輪切りにしてあるので、全体像が見えない所に今回のお恥ずかしい話の発端があります。

最初から「糞」の形があればもう少し理解が早かったと思います。化石の好きな私ですので、勿論のこと完全な恐竜の糞の完全なものがないかを尋ねました。店主はここにはないが取り寄せればあるとのこと、その価格は3000ドルを譲りませんでした。残念ながらこの価格では断念いたしました。機会を見てもう少し安い恐竜の糞の化石を購入しようと考えております。

現在はこの話を「三葉虫と恐竜の化石のアイスブレーキング」に付加して3点セットでアイスブレーキングを構成しております。

恐竜は巨大で強靱であったが絶滅し、変化に対応したゴキブリは生き残った。変化に対応するにはアンテナ(触角)が必要であり、触角のある三葉虫は13万円、な



原稿受付 2003年6月5日

*1 株式会社八戸インテリジェント プラザ

〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地 1-4-43

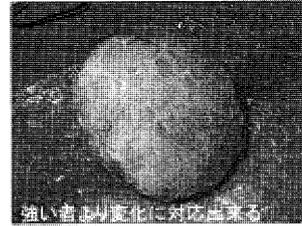
い三葉虫の化石は3千円とその価値が下がってしまう。現在は情報過多の社会であり、いくらアンテナが良くても入手できる情報が断片的な場合が多いので、この恐竜

の糞の輪切り化石の経験から断片情報から全体を把握出来る能力を併せて持つ必要があることをメッセージとして伝えることにしました。

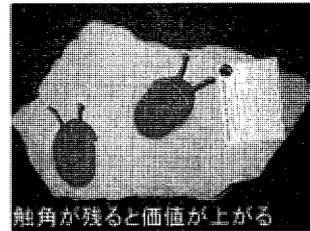
三葉虫、恐竜の卵と糞



ユタ州産 恐竜のDUNG



中国四川省産 恐竜の卵の化石



ロシア産触角のある三葉虫の化石